

NEWS LETTER

エジプト・アラブ共和国
特別活動を中心とした
日本式教育モデル発展・普及プロジェクト



ニュースレター第5号

ニュースレター第5号ではエジプトで最も長く Tokkatsu を実践する「パイオニア校」について紹介します。Tokkatsu 導入時の先生たちの苦勞や保護者の声などご覧ください。

さらに、本号では毎年恒例となっている夏の研修について、紹介します。実践的な内容が中心の研修が多く実施されました。

第5号の 主な記事

エジプトで実践される
Tokkatsu
—パイオニア校12校での取り組み—

夏の研修
—実践的な研修—

エジプトでは、日本の学習指導要領に定められた「特別活動」を参照し、現地の制度や習慣に沿って現地適応化しています。そこで、本紙では、エジプトのものを「Tokkatsu」として表します。

エジプトで実践 されるTokkatsu

パイオニア校12校での取り組み

パイオニア校:全国の公立学校から選ばれた12校で、日本式教育モデル導入当初はパイロット校と呼ばれましたが、現在はどの学校より先駆けて開始したことから「パイオニア校」と呼ばれています。



エジプトで2015年に初めて日本式教育モデルを導入した学校2校と、その翌年から導入した10校の計12校(パイオニア校)は、エジプト日本学校同様に、エジプトでの「Tokkatsu」の普及をリードする学校です。



パイオニア校では、各学校の状況に合わせ、学級会や掃除などの「Tokkatsu」の活動を実施していますが、1クラスの人数が50人を超えたり、学校の施設や備品が充分でなかったりと、教育環境が充分でないこともあります。(エジプト日本学校の標準的なクラスの人数は36人であり、学校施設や備品は新設。)



「Tokkatsu」導入当初、活動の多くは好意的に受け止められましたが、掃除については多くの反発がありました。そこで、保護者に掃除の理解を得るために、先生方自身も掃除を行い、学校で子どもたちが掃除を行う理解を広げていったそうです。

現在は、導入当初の反発とは一転し「家庭でも整理整頓をするようになった」「家の掃除などを手伝うようになった」と嬉しい声が多く聞かれるそうです。

学級会では「クラスを飾り付けしよう」や「ラマダンの飾りを考えよう」など、学校やクラスによって工夫した議題で実践しています。

現在、パイオニア校以外の全国の公立学校に向けても、Tokkatsuの導入が進んでいます。パイオニア校には、導入時に苦勞し克服した経験や、保護者から期待され継続している活動など、多くの経験が蓄積されています。プロジェクトでは、今後の全国の公立学校への導入にあたり、大きな役割を担う「パイオニア校」や「エジプト日本学校」と「全国の公立学校」の連携を支援していきます。

Q Tokkatsuの導入は児童にどのような影響を与えたと思いますか？

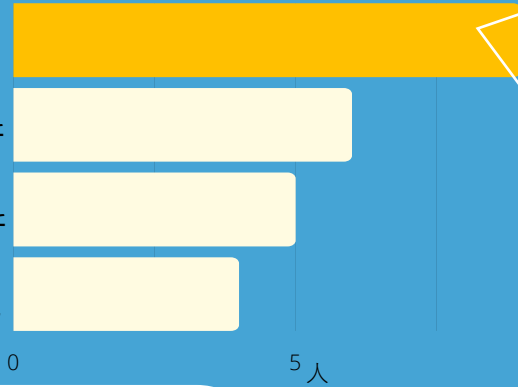
(19人有効回答)

規律向上

他者との協力や共感が高まった

児童の行動に変化が感じられた

自信の向上



・歯の磨き方、正しい手の洗い方、勉強の仕方など、学級指導(Tokkatsu)から恩恵を受けています。(アラビア語の先生)
 ・食事の時間になると机にランチョンマットを敷くなどの習慣も身につきました。彼らは健康的な朝食を食べます。彼らはより規律正しくなり、清潔さも増しました。(美術の先生)
 ・子供たちは、自分の意見ややりたいことをすべて話し、議論し、共有することができます。(美術の先生)
 ・お互いに助け合い、その協力の結果、児童の才能が開花しました。(心理士)

・自分の子どもを掃除に参加させたくない親もいました。私たちは掃除が子供たちに良い影響を与えることを説明しました。その後、児童全員で活動が始められると、両親は安心しました。(心理士)
 ・最初に何人かの親が、子供たちに掃除をさせる代わりに労働者を連れてくるためにお金を提供すると申し出ました。しかし、その後、掃除の理解が進み、親たちは家で掃除をしている子供たちの写真を私に送ってくれるようになりました。(アラビア語の先生)

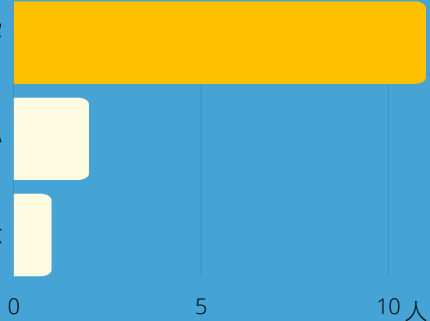
Q 最初にTokkatsu を導入したときの課題は何でしたか？

(14人有効回答)

掃除活動への拒否感と保護者への説明

文化の違い

学級会の備品の用意



TOKKATSUを実践しているパイオニア校12校の内5校、24名の先生に聞いてみました。

パイオニア校の先生の声



Q 今までの教育とTokkatsuは何が違うと思いますか？

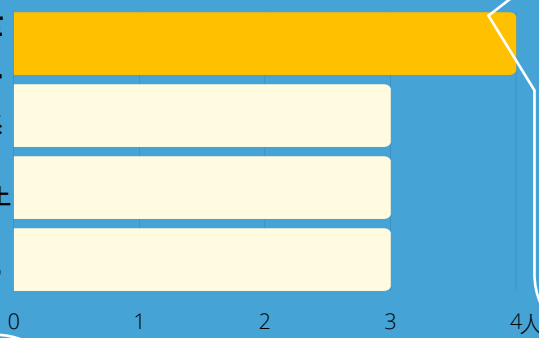
(16人有効回答)

衛生・清潔・規律などの向上

子ども・保護者と先生の良い関係

子どもの授業の参加や出席率が向上

子どもの様々な能力が育まれる



・他の学校との違いは明白です。清潔さと規律の実践において違いがあります。率直に言って、他の学校ではそんなことはありませんでした。(ソーシャルワーカー)
 ・以前は、教師には権威があり、子供たちは教師を見ると怖がって逃げたり隠れたりしていましたが、今はそうではありません。(学級担当の先生)
 ・生徒たちに学校や授業への参加動機を与えます。以前は学校に来なかった子供たちも、今は掃除があるため出席しています。(図書室司書)

・児童たちが穏やかになっていくのを見て、私は精神的に嬉しくなりました。彼らも協力的になり、暴力を振るわなくなりました。(ICTの先生)
 ・児童が自分の意見だけでなく、相手の意見もしっかりと聞くようになりました。(ソーシャルワーカー)
 ・以前は、家や学校で怒鳴るなど感情的になることがあったのですが、今では落ち着いて過ごせるようになりました。子供たちに一緒に仕事をする大切さを教えています。(アラビア語の先生)

Q Tokkatsu 実践をどう感じていますか？何か変化がありましたか？

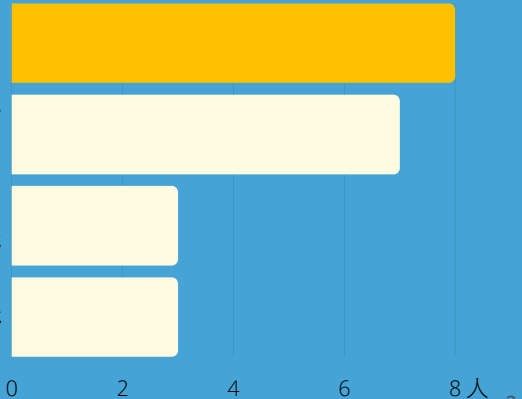
(17人有効回答)

自分自身にとっても良い変化、学びがあった

児童たちのコミュニケーションスキルが向上し相互理解できるようになった

児童たちの行動が改善し協力的になった

児童中心の授業になった



パイオニア校に通う子ども 両親へインタビューしました



シェリーンさん
1年生と2年生の娘さんの母親

アミーラさん
2年生の息子さんの母親

へばさん
2年生の息子さんと
幼稚園の娘さんの母親

TOKKATSUの授業を受けるようになって、子どもだけではなく 私自身も変わりました。

今日は、家庭での子どもたちの様子を教えてください。初めに子どもたちが学校で掃除や教室、日直などのTokkatsuを行っているのを知っていますか？家庭ではTokkatsuの実践をされていますか？

へば…はい。私の息子のアフマドはゴミをポイ捨てしません。屋外でも、ゴミ箱が見つかるまでごみを握っています。幼稚園の娘もアフマドの真似をします。

シェリーン…娘たちは食事の後片付けや彼女たちの部屋、彼女たちの周りの場所を片付けてくれます。

アミーラさんはどうですか？

アミーラ…息子は放課後、自分の部屋の片付けをするように教えられています。

みなさん、家庭でも掃除を実践しているんですね。子どもたちの性格の変化など、Tokkatsuの影響はありますか？

へば…アフマドは家で手伝いをするようになりました。彼と妹のフェアダは、以前とは対照的に、私を助けることを申し出てくれます。

素晴らしいですね。日直や掃除の習慣の影響が伺えますね。シェリーンさんのお子さんはどうですか？

シェリーン…子どもたちの性格に明確な変化がありました。責任感が生まれたようです。

お二人も何か変化がありましたか？

へば…私は子どもたちに、怒鳴って怒ることがなくなりました。私は息子が家で役割を果たしていると感じています。息子は今たくさんのことをして、妹にも教えています。人生はずっと穏やかにになりました。

子どもたちだけではなく、へばさん自身も変わったのですね。

アミーラ…私の家庭も変わりました。息子はずっと落ち着いて、善悪の区別がつくようになりました。私たちは家庭で話し合えることができ、大きな声を上げることを避けることができました。私たちはより穏やかになりました。

シェリーンさんは、どうですか？

シェリーン…大きい声をだすこともありますが、家は落ち着いていて、整理整頓されています。

みなさん、お子さんだけではなく、ご家庭でも良い変化があったのですね。今後Tokkatsuの効果も期待できます。

今日は、ありがとうございました！

夏の研修 –実践的な研修–

2023年7月からの9月の間にTokkatsuに係る、様々な研修が行われ、エジプト日本学校、パイオニア校などからのべ3500人以上の先生やTokkatsu指導員が研修に参加しました。全国の公立学校向けの研修は昨年度初めて全国規模で実施されましたが、本年度は特に、エジプトが国を挙げて取り組む貧困削減政策「ハヤカリマ事業」の対象として選ばれた3つの地域の学校（既存校と呼ぶ）の先生向けに研修を実施しました。その様子をご紹介します。

既存校向け研修の対象と主な内容

第1回目	770人（校長先生・先生）	・ Tokkatsuの理念、学級会、学級指導、日直、掃除、学校行事等についての講義 ・ ワークショップ
第2回目	500人（Tokkatsu担当の先生）	・ 1回目の講義内容を深める模擬実践 ・ 評価やリーダーシップを高める方法の講義
第3回目	180人 （各学校からTokkatsu担当の先生6名）	・ 学級会の模擬実践 ・ 杉田教授によるTokkatsuの講義

先生たちによる、初めての学級会の実践

本プロジェクトの研修では、講義だけではなく、ワークショップや模擬授業など、具体的に実践する内容が重視されています。つまり、初めて日本式教育（Tokkatsu）に携わる先生方が、理論的にも実践的にも学べるよう多くの点で工夫されています。

2023年7月～9月にかけて計3回実施した既存校研修でも、前半は理論を学び、後半は、来学年度から初めてTokkatsuを実践する先生方が、自ら先生や生徒役を演じ学級会を行いました。

プロジェクトの開始当初は、日本人専門家が多くの研修の講師を務めていましたが、現在ではTokkatsu指導員等が研修講師を務め活躍しています。

本既存校研修でもTokkatsu指導員が講師となり、アドバイスを与えながら進行了しました。



学級会の模擬実践でアドバイスするTokkatsu指導員



実践1

学級会の役割と議題を決めよう

①最初に、学級会の司会や書記などの役割を行う人を決めます。今回は4人が立候補しました。役割を担当する人は、学校で行うのと同じように手作りの王冠などを着用し役割が分かるようにします。



②次に、全員がそれぞれ考えた学級会の議題を投票箱に入れます。

投票箱作成は、各グループが研修センターの宿泊先で空き時間に行いました。みんなで持ち寄り一番良いものをみんなで決めて使用しました。



③司会が各意見を読み上げ、意見を仕分けします。まとめられそうなものがあればまとめます。



④提案者は、なぜその議題を提案したか理由も添えて発表します。

⑤全員で、意見を出し合い、比べ、どの議題を話し合うか決めます。

実践2 学級会



①実践1で決めた議題をもとに、学級会が始まります。最初に学級会の司会が議題を共有し、それぞれあいさつします。今日の議題は、「クラスの友達のことを知れる活動を行おう！」



Tokkatsu指導員からアドバイス：他の友達のことを知れることを目的とした活動を出し合えるようにしましょう。

②「アルファベットを使って友達を紹介しよう」「椅子取りゲームをしよう」「ボールを使った自己紹介」「絵を描こう」「伝言ゲーム」などの意見が出ました。



Tokkatsu指導員からアドバイス：「絵を描こう」は学級会の目的にありますか？

③もちろんホワイトボードを書く練習もします。



Tokkatsu指導員からアドバイス：意見は、安全上の理由で実施できないものなど以外は、全て書きましょう。

④司会：それでは1つ選びましょう。



Tokkatsu指導員からアドバイス：1つ選ぶのではなく、意見をまとめられるもの、整理できるものはありませんか？

司会：意見を整理することはできますか？

生徒：「ボールを使った自己紹介」と「伝言ゲーム」をくっつけるのはどうですか？

⑤みんなの意見がまとめられ、合意形成できました。決まった、活動は「ボールを使った伝言ゲームでの自己紹介」

⑥時間があるグループは、学級会で決まったことの実践も行いました。

あるグループは、みんなで仲良くなるために「Tokkatsuの歌を歌おう」と決めて、みんなで歌を歌うところまで実践しました。

実際に学級会の流れを一通り実践することで、教室での先生の役割や、先生自身がどのような点に注意して進行しなければならないか、子どもたちからどのように意見を引き出したら良いかなど、大きな学びを得られたようです。

本プロジェクトは、日本人専門家以外にも、多くのJICA海外協力隊がエジプト日本学校に配属され、Tokkatsuを始めとした日本式教育の普及を行っています。

現場に最も近い、JICA海外協力隊がエジプト日本学校の先生向けに企画した研修会をレポートしてくれました。

JICA海外協力隊員が企画した エジプト日本学校体育教員向け研修会レポート

9月5日から7日の3日間にかけて、体育教師の授業力向上を目的に、首都カイロにあるEducation Cityと呼ばれる研修施設で研修会を行いました。対象者はエジプト国内のエジプト日本学校全校の体育教師約85名です。中には800km以上の道のりをかけて、この研修会に参加してくれた先生もいました。

研修会初日は体育についての基本的な講義と指導案作り、2日目は模擬授業とその振り返り、3日目は模擬運動会と全体のまとめを行いました。簡易的ですが3日間の研修から日本のレッスンスタディ



(授業研究)の良さや行い方を理解してもらい、さらには参加教師たちが自校に帰ってからもレッスンスタディ(授業研究)を行ってほしいという願いを込めて研修会を実施しました。

この研修会の開催のきっかけは、現地のエジプト日本学校の体育教師の悩みを解決したいという思いでした。そもそもこのエジプト日本学校では、「日本式教育をエジプトで行う」というとてつもなく大きな挑戦をしています。この大きな挑戦には、多くの援助がなされていますが、その多くは

Tokkatsuに関するものです。Tokkatsuに関して、各校を巡回しながら指導する指導員はいますが、体育の指導員はいません。「日本式の体育の授業やUNDOKAI(運動会)を行わなければならない。でも、そんなもの見たことも聞いたこともない!!」現場の先生の悩みは切実でした。

このような思いはエジプト日本学校で活動する隊員の間で共有されていました。そして、目の前の子どものために地道に働く先生たちの力になりたいという思いから、今回の研修会につながりました。しかし、私たち協力隊員も「日本式教育とは?」「体育授業の基礎とは?」「運動会の意義とは?」など多くの悩みがありました。そこで、JICA海外協力隊事業の体育分野の技術顧問をされている日本体育大学の白旗和也先生のご協力を仰ぎました。

白旗先生にはエジプトにお越しいただく前にエジプト日本学校の現状と課題をお伝えし、何度もオンライン会議を重ねながら、研修会では日本式教育を通じてこれらを解決するような講義をしていただきました。また実際の研修では、模擬授業など実践を多く行なったことで、先生たちも実際に体を動かして楽しみながら学んでいました。

参加者からは、事後のアンケートで、「係分担におけるシステムや秩序を学びました。あなたたちの仕事への努力や愛を感じました」というコメントのほか、「半年後にもう一度研修会をしたい」「毎年このような研修会を行いたい」のように研修会を継続的に行っていききたいという意見や、「日本に行って学びたい」といった声が多く寄せられました。

エジプト教育省、特にエジプト日本学校を管轄するPMUの皆さま、JICA技術協力プロジェクトの専門家の皆さまはじめ、多くの方のご協力を得て、本研修会が開催され、現場の先生たちに喜んでもらったことが何よりも嬉しく、自分たちの自信にもつながりました。

今後もエジプトの体育の向上のために、頑張りたいと思います。

(2023.09 JICA海外協力隊 体育分科会一同 寄稿)

JICA海外協力隊によるレポートいかがでしたか? 今後もエジプト日本学校での、JICA海外協力隊の活動もご紹介していきます。

第5号ニュースレターでは、パイオニア校でのTokkatsuの実践や、保護者の声をご紹介しました。エジプト日本学校以外でも進む、Tokkatsu普及の取り組み、6年目のエジプト日本学校の様子など次号でも、お届けしていきます。

問い合わせ先

JICA技術協力プロジェクトチーム
holistic_edu@padeco.co.jp